

エコアクション21

2016年度環境活動レポート

(対象期間：2016年6月1日～2017年5月31日)

2017年7月31日発行



目次

第1章 環境方針	1
第2章 環境目標とその実績	2～6
第3章 環境活動計画の内容 と 環境活動計画の取組結果の評価, 2017年度の取組内容	6～9
第4章 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反, 訴訟等の有無	10
第5章 組織の概要	11
第6章 対象範囲	12
第7章 代表者による全体評価と見直しの結果	12

第1章 環境方針

環 境 方 針

1. 株式会社 ピーシーエヌは、環境保全が最重要課題の1つであることを認識し、抵抗器・計測器の製造及び販売を中心とした事業活動において、「佐渡の空、トキよふたたび甦れ」を夢に佐渡の自然環境を愛する企業として、継続的に環境改善に努めます。
2. 環境への取組の基本的方向を以下に示します。
 - 1) 二酸化炭素排出量を削減します。
 - 2) 廃棄物を削減します。
 - 3) 水使用量を維持管理します。
 - 4) 紙使用量を維持管理します。
 - 5) 購入品のグリーン調達を推進します。
 - 6) 化学物質使用量を維持管理します。
 - 7) 環境負荷に配慮した製品を生産及び販売します。
3. 事業活動において関連法規を順守します。

この環境方針を全員に周知し、一般にも公開します。



制定2007年 8月30日

改定2015年 6月24日

株式会社 ピーシーエヌ
専務取締役 北上 俊憲

第2章 環境目標とその実績

1. 2014年度～2016年度の環境負荷の実績

1.1 全社

No	項目	単位	2014年度	2015年度	2016年度
1)	二酸化炭素排出量（総量） 二酸化炭素の排出係数(工場:0.571kg-CO ₂ /kWh) (支店:0.505kg-CO ₂ /kWh)	kg-CO ₂	92,729	87,739	84,138
	(出荷個数当たり)	kg-CO ₂ /個	0.049	0.057	0.037
2)	廃棄物排出量（総量）	t	5.41	3.60	3.56
	(出荷個数当たり)	g/個	2.842	2.336	1.571
3)	水資源投入量（人数当たり）	m ³ /人数	7.578	8.285	8.562
4)	コピー用紙使用量（総量）	kg	451.10	493.36	460.69

※ 二酸化炭素の排出係数は、2016年度(41期)より、平成27年11月30日環境省発表の「-平成26年度実績-電気事業者別排出係数」の実排出係数に基づき、本社工場は東北電力0.571(kg-CO₂/kWh)、相模原支店は東京電力の0.505(kg-CO₂/kWh)で計算した値としています。
比較の為、2014年度及び2015年度の二酸化炭素排出量を上記の排出係数で再計算しております。

1.2 本社工場

No	項目	単位	2014年度	2015年度	2016年度
1)	二酸化炭素排出量（総量） 二酸化炭素の排出係数(工場:0.571kg-CO ₂ /kWh)	kg-CO ₂	83,863	78,411	74,358
	(出荷個数当たり)	kg-CO ₂ /個	0.139	0.139	0.147
2)	廃棄物排出量（総量）	t	2.52	2.27	2.35
	(出荷個数当たり)	g/個	4.191	2.318	4.662
3)	水資源投入量（人数当たり）	m ³ /人数	7.67	8.19	8.72
4)	コピー用紙使用量（総量）	kg	211.60	246.93	241.88

1.3 相模原支店

No	項目	単位	2014年度	2015年度	2016年度
1)	二酸化炭素排出量（総量） 二酸化炭素の排出係数(支店:0.505kg-CO ₂ /kWh)	kg-CO ₂	8,867	9,328	9,780
	(出荷個数当たり)	kg-CO ₂ /個	0.007	0.010	0.006
2)	廃棄物排出量（総量）	t	2.89	1.34	1.21
	(出荷個数当たり)	g/個	2.219	2.267	0.685
3)	水資源投入量（人数当たり）	m ³ /人数	7.69	8.69	8.09
4)	コピー用紙使用量（総量）	kg	239.50	246.43	218.81

2. 基準値と2016年度の環境目標と実績

二酸化炭素の排出係数 (工場:0.571kg-CO₂/kWh)
(支店:0.505kg-CO₂/kWh)

2.1 全社

No	項目	基準値	目標 実績	2016年度	2017年度	2018年度
1)	二酸化炭素排出量の削減(総量) ※1	2015年度実績値	目標	86,861 kg-CO ₂ (-1%)	85,984 kg-CO ₂ (-2%)	85,107 kg-CO ₂ (-3%)
		87,739 kg-CO ₂	実績	84,138 kg-CO ₂ (-4.1%)	—	—
2)	廃棄物の削減 (出荷個数当たり)	2015年度実績値	目標	2.324 g/個 (-0.5%)	2.313 g/個 (-1.0%)	2.301 g/個 (-1.5%)
		2.336 g/個	実績	1.571 g/個 (-32.7%)	—	—
3)	水使用量の維持 (人数当たり) ※2	2014年度以前の計画値	目標	8.568 m ³ /人数 (0%)	8.568 m ³ /人数 (0%)	8.568 m ³ /人数 (0%)
		8.568 m ³ /人数	実績	8.562 m ³ /人数 (-0.07%)	—	—
4)	コピー用紙使用量の維持(総量) ※3	2015年度実績値	目標	493.36 kg (0%)	493.36 kg (0%)	493.36 kg (0%)
		493.36 kg	実績	460.69 kg (-6.6%)	—	—
5)	グリーン購入の推進 (古紙含有紙 使用率の向上)	2015年度実績値	目標	96.5% (+0.5ポイント)	97.0% (+1.0ポイント)	97.5% (+1.5ポイント)
		96.0% (使用率)	実績	99.4% (+3.4ポイント)	—	—
6)	化学物質使用量の削減目標(有機溶剤使用量の維持) (出荷個数当たり) ※4	2015年度実績値	目標	0.6521g/個 (0%)	0.6521g/個 (0%)	0.6521g/個 (0%)
		0.6521g/個	実績	0.7397/個 (+13.4%)	—	—
7)	自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する配慮 (対応件数)	2015年度実績値	目標	1点以上	1点以上	1点以上
		RoHS指令対応件数1点 (個別製品)	実績	0点	—	—

※1 2016年度(41期)より、平成27年11月30日環境省発表の「-平成26年度実績-電気事業者別排出係数」の実排出係数に基づき、本社工場は東北電力の0.571(kg-CO₂/kWh)、相模原支店は東京電力の0.505(kg-CO₂/kWh)で計算した値とします。

※2 2016年度(41期)以降の目標値は、2014年度以前の目標値の維持とします。

※3 2016年度(41期)以降の目標値は、2015年度(40期)実績の維持とします。

※4 削減が限界に達したと考えられますので、2016年度(41期)以降の目標値は、2015年度(40期)実績の維持とします。

2.2 本社工場

二酸化炭素の排出係数 (工場:0.571kg-CO₂/kWh)

No	項目	基準値	目標 実績	2016年度	2017年度	2018年度
1)	二酸化炭素排出量の削減 (総量)	2015年度実績値	目標	77,627 kg-CO ₂ (-1%)	76,843 kg-CO ₂ (-2%)	76,058 kg-CO ₂ (-3%)
		78,411 kg-CO ₂	実績	74,358 kg-CO ₂ (-5.2%)	—	—
2)	廃棄物の削減 (出荷個数当たり)	2015年度実績値	目標	2.355 g/個 (-0.5%)	2.343 g/個 (-1.0%)	2.331 g/個 (-1.5%)
		2.367 g/個	実績	4.662 g/個 (+97.0%)	—	—
3)	水使用量の維持 (人数当たり)	2014年度以前の 計画値	目標	7.578 m ³ /人数 (0%)	7.578 m ³ /人数 (0%)	7.578 m ³ /人数 (0%)
		7.578 m ³ /人数	実績	8.724 m ³ /人数 (+15.1%)	—	—
4)	コピー用紙使用量の維持 (総量)	2015年度実績値	目標	246.93 kg (0%)	246.93 kg (0%)	246.93 kg (0%)
		246.927kg	実績	241.88 kg (-2.0%)	—	—
5)	グリーン購入の推進 (古紙含有紙 使用率の向上)	2015年度実績値	目標	97.0% (+0.6ポイント)	97.5% (+1.1ポイント)	98.0% (+1.6ポイント)
		96.4% (使用率)	実績	100.0% (+3.6ポイント)	—	—
6)	化学物質使用量の維持 (出荷個数当たり) …担当:本社工場 ワーキンググループ	2015年度実績値	目標	0.6521g/個 (0%)	0.6521g/個 (0%)	0.6521g/個 (0%)
		0.6521g/個	実績	0.7397/個 (+13.4%)	—	—
7)	自らが生産・販売・ 提供する製品及び サービスに関する 配慮 (対応件数) …担当:本社工場 ワーキンググループ ※1	2015年度実績値	目標	1件以上	1件以上	1点以上
		RoHS 指令対応 件数1点 (個別製品)	実績	0点	—	—

※1 “化学物質使用量の削減(有機溶剤使用量の削減)”及び“自らが生産・販売・提供する製品及びサービス”に関する配慮 (RoHS 指令対応件数) につきましては、活動が本社工場のみとなります。

2.3 相模原支店

二酸化炭素の排出係数（支店:0.505kg-CO₂/kWh）

No	項目	基準値	目標実績	2016年度	2017年度	2018年度
1)	二酸化炭素排出量の削減（総量）	2015年度実績値 9,328kg-CO ₂	目標	9,235kg-CO ₂ (-1%)	9,141kg-CO ₂ (-2%)	9,048kg-CO ₂ (-3%)
			実績	9,780kg-CO ₂ (+4.8%)	—	—
2)	廃棄物の削減 (出荷個数当たり)	2015年度実績値 2.318g/個	目標	2.306g/個 (-0.5%)	2.295g/個 (-1.0%)	2.283 g/個 (-1.5%)
			実績	0.685g/個 (-70.4%)	—	—
3)	水使用量の維持 (人数当たり)	2014年度以前の 目標値 11.717 m ³ /人数	目標	11.717m ³ /人数 (0%)	11.717m ³ /人数 (0%)	11.717m ³ /人数 (0%)
			実績	8.090 m ³ /人数 (-31.0%)	—	—
4)	コピー用紙使用量の維持（総量）	2015年度実績値 264.430kg	目標	264.43 kg (0%)	264.43 kg (0%)	264.43 kg (0%)
			実績	218.81 kg (-17.3%)	—	—
5)	グリーン購入の推進 (古紙含有紙 使用率の向上)	2015年度実績値 95.6% (使用率)	目標	96.0% (+0.4ポイント)	96.5% (+0.9ポイント)	97.0% (+1.4ポイント)
			実績	98.7% (+3.1ポイント)	—	—

*1 年度は、6月～5月です。

*2 2016年度の目標は、基本的に2015年度を基準年とした3年計画の目標を達成するための1年目の目標値です。

2.4 2016年度の考察は、次の通りです。

① 二酸化炭素排出量の目標を達成致しました。（総量）

目標値を約3.13%下回った。さらに基準年度(2012年度)と比較して約4.10%の削減となりました。引き続き削減活動を実施していきます。

・2017年度(42期)の目標値は、2015年度(40期)実績の2%の削減とします。

② 廃棄物の目標を達成致しました。（出荷個数当たり）

本社工場の累計実績値は未達成でありましたが、相模原支店及び全社の累計実績値は計画値を達成しました。引き続き削減活動を実施していきます。

・2017年度(42期)の目標値は、2015年度(40期)実績の1.0%の削減とします。

③ 上水道使用量の目標を達成致しました。（人数当たり）

全社の累計計画値をкаろうじて達成しました。本社工場は年間を通して未達成であり、部門による達成度の差が大きいため、部門の目標値を2016年度の実績値に変更します。（全社の目標値に変更なし）。

・2017年度(42期)の目標値は、2015年度(40期)実績の維持としますが、部門の目標値は2016年度(41期)実績値とします。

- ④ コピー用紙使用量の目標を達成致しました。(総量)
 本社工場及び相模原支店共に累計計画値を達成しました。
 ・2017年度(42期)の目標値は、2016年度(41期)の達成率が大きくなかったことから、引き続き2015年度(40期)実績の維持とします。
- ⑤ グリーン購入の推進(古紙含有紙 使用率の向上)の目標を達成致しました。(使用率)
 累計計画値の96.5%を2.9ポイント上回る99.4%でした。
 ・2017年度(42期)の目標値は、2015年度(40期)の実績値が目標値を大幅に超えたため、上方修正し、99.5%とします。
- ⑥ 化学物質使用量削減の目標は未達成でした。(出荷個数当たり)
 累計計画値を約13.4%越えました。
 原因：有機溶剤の使用量は、昨年度と同量であったが、生産個数が10.6%減少し洗浄を必要とする生産品目が増加したことにより、値が上昇したと考えられます。
 ・2017年度(42期)は洗浄を必要とする生産品がさらに増加し、生産数の増加も見込まれることから、2017年度(42期)の目標値は2016年度(41期)実績値に修正します。
- ⑦ 自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する配慮の目標は未達成でした。(対応件数)
 累計計画値が未達成。
 RoHS指令未対応の弊社製品が精密級抵抗器の2点のみとなり、RoHS指令に対応していない材料がなくなり次第生産中止等の対応を予定していましたが、受注状況などにより近々その見込みがたたない事が明確になりました。
 ・2017年度(42期)は目標内容を見直し、「生産工程の不良率を低減し廃棄物を削減(SOC管理の体制を維持)」に変更し、目標値は、不良率の品質目標に連動して活動を行います。

第3章 環境活動計画の内容 と 環境活動計画の取組結果の評価, 2017年度 の取組内容

No	環境目標	環境活動計画の内容	結果・評価	次年度の取組内容
1	二酸化炭素 排出量の削減	昼休みに照明を消灯する。 使用してない箇所の電気を消す。 昼休みにパソコンの電源をOFF。	○	継続。
2		空調の適正化(冷房28℃程度, 暖房20℃程度)の徹底。	○	継続。
3		工程, 最終不良率の改善。	○	継続。
4		モールド工程(金型)予熱の消費電力の削減。	○	継続。
5		恒温槽使用の効率化	○	継続。
6		照明器具のLED化を推進	○	継続。
7		省エネ冷暖房設備への切り換え推進	○	継続。

No	環境目標	環境活動計画の内容	結果・評価	次年度の取組内容
6	廃棄物の削減	廃プラに混在する新聞紙を分別する。	○	継続。
7		分別を推進し、銅、アルミ等の再資源化をはかる。	○	継続。
8		製品切替(RH→FH)による成形条件見直しにて、ポットに残る樹脂量を低減。	○	継続。
9		再利用段ボール箱の社内便への使用。	○	継続。
10		使用済み段ボール箱の梱包材への再利用。	○	継続。
11		梱包材等の古新聞紙を再生利用へ。	○	継続。
12	水使用量の維持	ポスターによる節水の啓蒙。	○	継続。
13		水洗トイレのタンクへペットボトルを入れ、トイレ用水を節水する。	○	継続。
14		便器(男性)の水排出時間を短くする。	○	継続。
15	コピー用紙使用量の維持	ポスターによる紙節約の啓蒙。	○	継続。
16		プロジェクター等の使用による会議資料のペーパーレス化を推進。	○	継続。
17		電子メディア等の利用によるペーパーレス化の推進。	○	継続。
18		両面コピー及び裏紙の有効利用による紙の節約。	○	継続。
19	購入品のグリーン調達	グリーン購入の推進(古紙含有紙使用率の向上)。	○	継続。
20	化学物質使用量の維持(有機溶剤使用量の削減。)	使用後のハンドラップ、小分け容器及び一斗缶の蓋を確実に締める又は覆い、蒸発を防止する。	○	継続。
21		適正な洗浄(時間、量及び方法)を行い、効率的に使用する。	○	継続。
22		使用中、廃液等の識別を明確に行い、廃液混入を防止する。	○	継続。
23	自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する配慮	RoHS 指令未対応品の生産中止。	×	目標内容の見直し。
24		RoHS 指令未対応品の対応推進。	×	目標内容を見直し、「生産工程の不良率を低減し廃棄物を削減(SOC 管理の体制を維持)」に変更し、計画値は、不良率の品質目標に連動した活動を行います

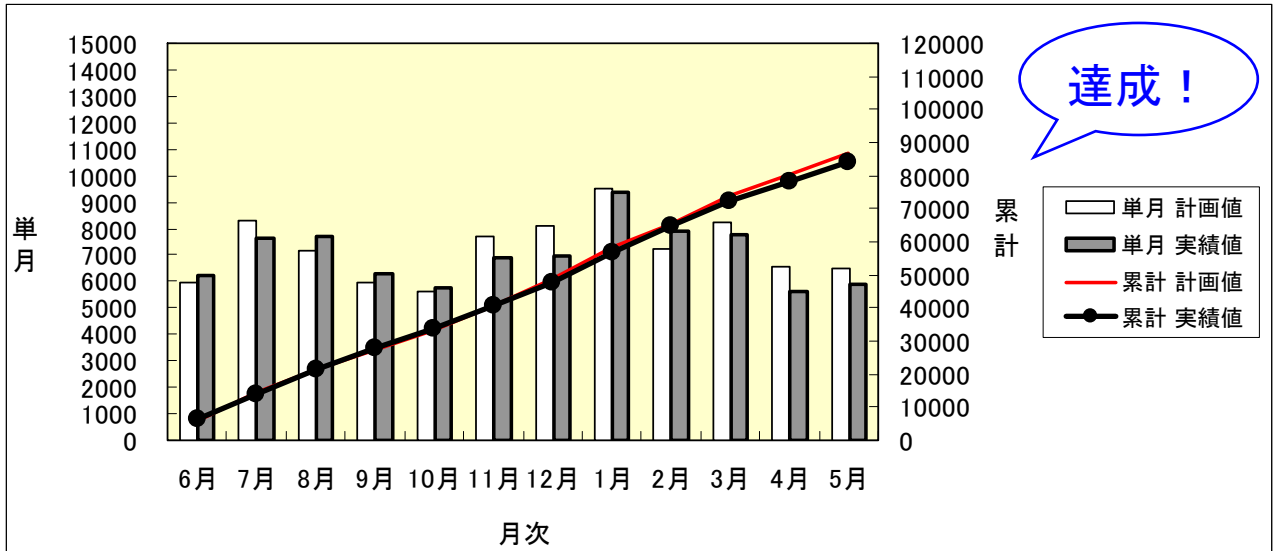
※ 結果・評価欄 凡例の説明 ○：予定通り実施
△：進捗 50%以上
×：進捗 50%以下



【2016年度 環境目標 達成状況グラフ】

二酸化炭素排出量の削減（総量）

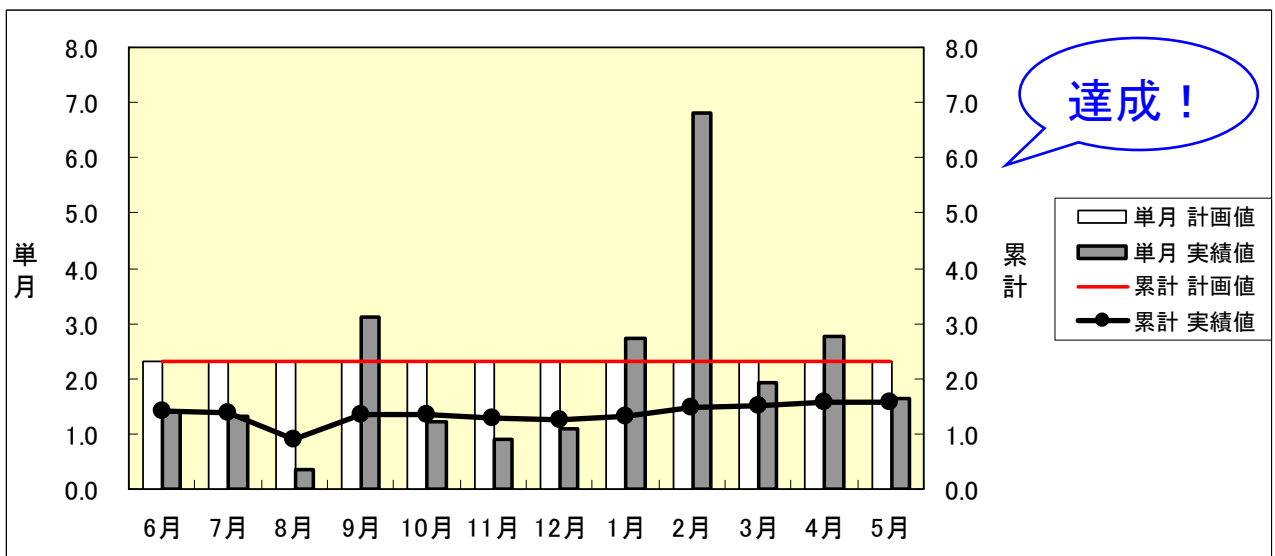
kg-CO₂



※ 2016年度(41期)より，平成27年11月30日環境省発表の「-平成26年度実績-電気事業者別排出係数」の実排出係数に基づき，本社工場は東北電力の0.571(kg-CO₂/kWh)，相模原支店は東京電力の0.505(kg-CO₂/kWh)で計算した値とします。

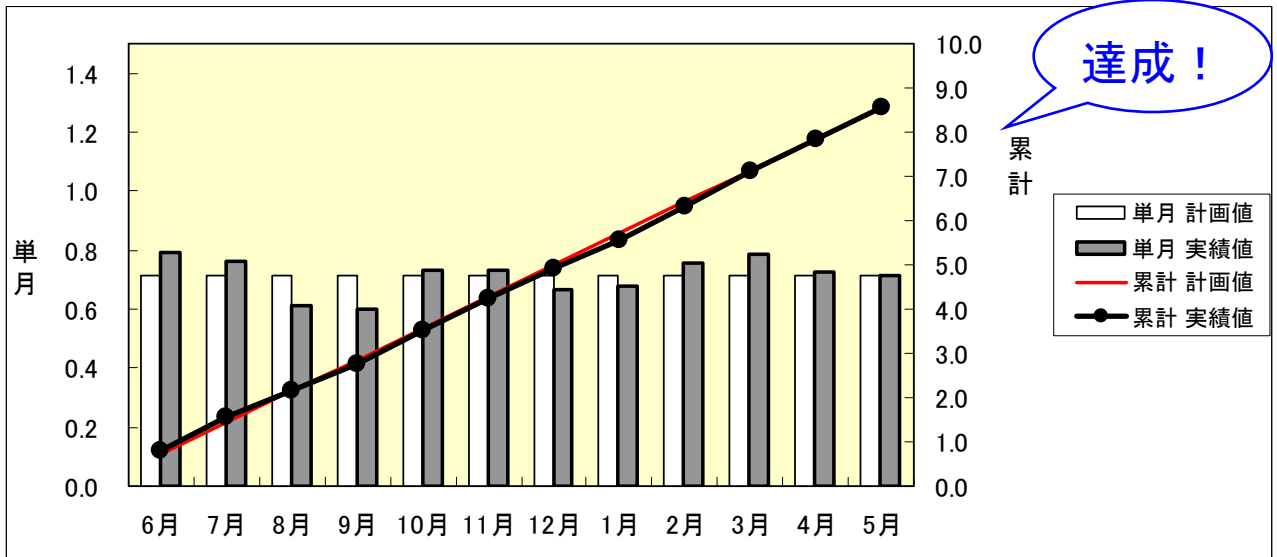
廃棄物の削減（生産個数当たり）

g/個



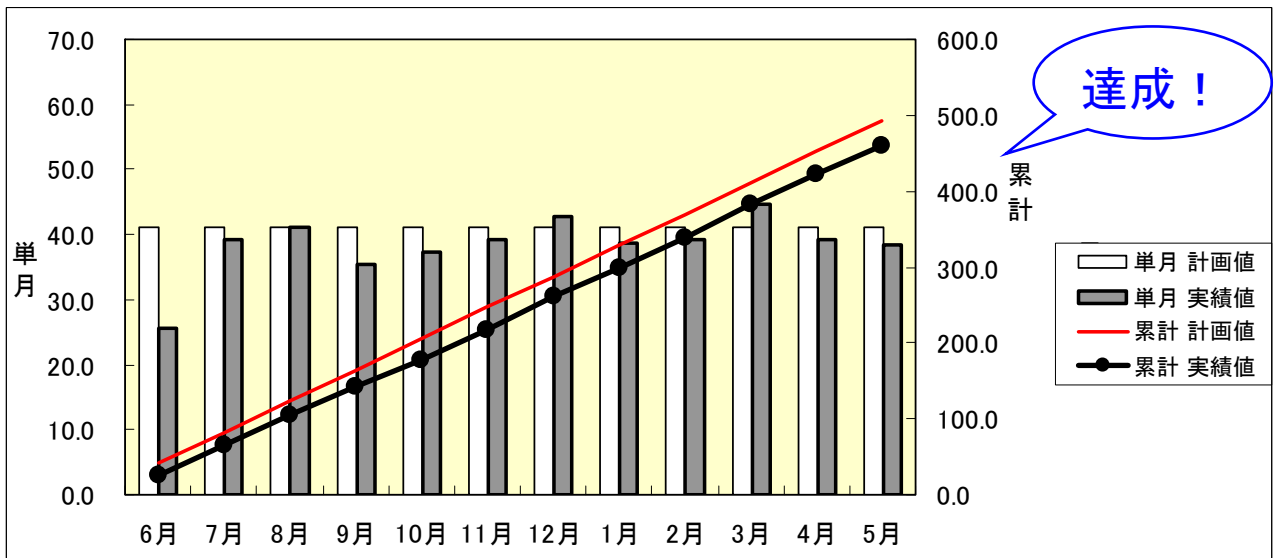
水使用量の維持(人数当たり)

m³/人数



コピー用紙使用量の維持(総量)

Kg



第4章 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

1. 環境関連法規の順守状況を自らチェックし、違反はありません。
2. 関係当局からの違反の指摘は、過去3年間ありません。
3. 訴訟も、過去3年間ありません。

【環境関連法規一覧】

環境基本法
大気汚染防止法
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律
水質汚濁防止法
下水道法
工場立地法
騒音規制法
振動規制法
新潟県生活環境の保全等に関する条例施行規則
神奈川県生活環境の保全等に関する条例施行規則
循環型社会形成推進基本法
廃棄物の処理及び清掃に関する法律
新潟県産業廃棄物等の適正な処理の促進に関する条例
ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法
特定家庭用機器再商品化法
使用済み自動車の再資源化等に関する法律
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律
労働安全衛生法
労働安全衛生規則
有機溶剤中毒予防規則
毒物及び劇物取締法
消防法
危険物の規制に関する政令
佐渡市火災予防条例
相模原市火災予防条例
R o H S (R o H S 2) 指令

第5章 組織の概要

本社工場

No	項目	内容	
1	事業所名および 代表者氏名	株式会社 ピーシーエヌ 本社工場 専務取締役 北上 俊憲 (E A 2 1 代表)	
2	所在地	〒952-0212 新潟県佐渡市宮川 1 0 7 番地 1	
3	環境管理責任者氏名 および担当者連絡先	環境管理責任者	専務取締役 北上 俊憲
		担当者	製造部 部長 若林 英則
		連絡先	TEL 0 2 5 9 - 6 6 - 3 1 1 0 FAX 0 2 5 9 - 6 6 - 3 1 5 1
4	事業活動の内容	固定抵抗器及び計測機器の設計・開発並びにその製造	
5	事業の規模	製品出荷数量	502,826 個 (2016 年度)
		従業員数	29 名
		述べ床面積	1,018.2 m ²
6	問い合わせ先	ホームページ	http://www.pcn.co.jp/
		メールアドレス	wakabayasi@pcn.co.jp

相模原支店

No	項目	内容	
1	事業所名および 代表者氏名	株式会社 ピーシーエヌ 代表取締役 社長 宮崎 泰治	
2	所在地	〒252-0231 神奈川県相模原市中央区相模原 4 丁目 3 番 1 7 号	
3	担当者連絡先	担当者	営業部 販売管理課 課長 鵜沼 智春
		連絡先	TEL 0 4 2 - 7 7 6 - 0 9 3 1 FAX 0 4 2 - 7 7 6 - 0 9 4 0 E-mail : sales@pcn.co.jp
4	事業活動の内容	固定抵抗器及び計測機器等の販売	
5	事業の規模	製品販売数量	1,760,394 個 (2016 年度) …転売品のみ
		従業員数	11 名
		述べ床面積	148.1 m ²

第6章 対象範囲

全組織，全活動。

第7章 代表者による全体評価と見直しの結果

1. 全体評価

一部の照明のLED化や，節電効果の大きい冷暖房設備への入れ替え等で，CO₂削減の計画値を達成でき満足するものでした。

2. 見直しの結果

- ① 環境方針 : 代表者を「専務取締役 北上俊憲」から「技術統括取締役 北上俊憲」へ変更。
- ② 環境目標 : 環境負荷に配慮した製品を生産及び販売
・環境目標の項目を「製品名単位で1点以上のRoHS指令対応又は削減」から「生産工程の不良率を低減し廃棄物を削減（SOC管理の体制を維持）」に変更。
- ③ 環境目標値 : 3年間の中期計画を作成し，2年目として次の通り計画を変更する。
 - 1. 水使用量の維持
2017年度(42期)の全社目標値は，2015年度(40期)実績の維持とするが，部門の目標値は2016年度(41期)実績値とする。
 - 2. グリーン購入の推進（古紙含有紙使用）
2017年度(42期)の目標値は，2016年度(41期)の実績が目標値を大幅に超えたため，2017年度(42期)の目標値を上方修正し，99.5%とする。
 - 3. 化学物質使用量の削減推進
2017年度(42期)は洗浄を必要とする生産品がさらに増加し，生産数の増加も見込まれることから，2017年度(42期)の目標値は2016年度(41期)の実績値に変更する。
 - 4. 環境負荷に配慮した製品を生産及び販売
2017年度(42期)は目標内容を見直し，「生産工程の不良率を低減し廃棄物を削減（SOC管理の体制を維持）」に変更し，目標値は，不良率の品質目標に連動する
- ④ 緊急事態 : 変更なし。
- ⑤ その他 : 変更なし。

以上